

第5回焼津市スマートシティ推進検討会

日時：令和5年12月22日（金）午後1時30分～

会場：焼津市役所4階応接室

1. 開会

2. 議事

＜報告＞

スマートシティYAIZU推進方針について

＜意見交換＞

今後の事業について

3. 閉会

報告

スマートシティYAIZU推進方針について

スマートシティYAIZU推進方針方針策定業務委託

スマートシティYAIZU推進方針

別紙資料①をご覧ください。

意見交換

今後の事業について

デジタル田園都市国家構想交付金の活用を前提に検討

デジタル実装タイプ1/2/3等：制度概要

**TYPESの詳細は
年明け以降公開予定**

| | |
|------|---|
| 目的 | デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進するため、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けた地方公共団体の取組を交付金により支援 |
| 概要 | デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けて、以下の事業の立ち上げに必要な経費を単年度に限り支援 【TYPE1】他の地域等で既に確立されている優良なモデル・サービスを活用して迅速に横展開する取組 【TYPE2】オープンなデータ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う、モデルケースとなり得る取組 【TYPE3】(TYPE2の要件を満たす) デジタル社会変革による地域の暮らしの維持につながり、かつ総合評価が優れている取組 【TYPES】「デジタル行財政改革」の基本的考え方に合致し、将来的に国や地方の統一的・標準的なデジタル基盤への横展開につながる見込みのある地方自治体の先行モデル的な取組 |
| 共通要件 | ① デジタルを活用して地域の課題解決や魅力向上に取り組む ② コンソーシアムを形成する等、地域内外の関係者と連携し、事業を実効的・継続的に推進するための体制を確立 |

焼津市がデジ田交付金を申請する場合、原則として、構築済みのデータ連携基盤を活用して行われるものである場合に限り、申請することが可能。

| | | | | |
|--|--|---|---|-------------------------------|
| 詳細 | <TYPE別の内容> New! | | <対象事業（一例）> 【TYPE2/3】 複数分野データ連携の促進による 共助型スマートシティ（会津若松市）  【TYPE1】 書かない窓口 地域アプリ 遠隔医療  | |
| | デジタル行財政改革 先行挑戦型 【TYPE S】 | 「デジタル行財政改革」の基本的考え方に合致し、国や地方の統一的・標準的なデジタル基盤への横展開につながる見込みのある先行モデル的な取組 | | 事業費：5億円 補助率：3/4 + 伴走型支援 |
| | デジタル社会変革型 【TYPE 3】 | 下記いずれかを満たし、総合評価が優れているもの・新規性の高いマイナンバーカードの用途開拓 New! ・AIを高度活用した準公共サービスの創出 | | 国費：4億円 補助率：2/3 |
| | データ連携基盤活用型 【TYPE 2】 | データ連携基盤を活用した、複数のサービスの実装を伴う取組 | | 国費：2億円 補助率：1/2 |
| | 優良モデル導入支援型 【TYPE 1】 | 優良モデル・サービスを活用した実装の取組 | 国費：1億円 補助率：1/2 | |
| (注) 上記のほか、計画策定支援事業において、デジタル実装に取り組もうとする地域の計画づくりを支援し、地方創生テレワーク型において、サテライトオフィスの整備・利用促進等を支援。 | | | | |

2023年12月21日：デジ田タイプ2/3説明会資料より

サービスカタログ・モデル仕様書の趣旨と今後の展望

2023年12月14日
第15回デジタル田園都市国家構想実現会議：資料4より
赤枠のみ追記

【これまで】

- 各業務現場のやり方に適したシステムの作り込みに、ベンダーも自治体も時間とコストを投下。



- 現場のリクエストに合わせたシステムの「作りこみ」は、事業者にとっては顧客の困り込みにつながり、現場との間に挟まれた情報システム/デジタル推進の担当もますますベンダーの知見を頼ることから両者の相互依存関係を強化。実質的な競争の乏しい市場を形成しやすい。



【これから】



- 優良で横展開のポテンシャルの高いサービス/システムを活用し、その「使いこみ（どう使いこなすか）」に時間とコストを投下

- 初めから優良なサービス/システムを導入し、どうすれば使われるか、どうすれば効率的になるか、「作りこみ」ではなく「使いこみ」の方に時間と労力を投下。

ex)このうち、データ連携基盤については、すでに構築された基盤を共同で利用することを求め、デジ田交付金の審査において大幅に加点評価するとともに、各都道府県下のデータ連携基盤統一化ビジョンを策定し、同ビジョンと市区町村の取組の整合性についても、あわせて説明を求めることとする。

- このため、地域に対し必要な情報の提供や相談を行う枠組みを設置し調達現場を支援
 - ① 優良なサービス/システムに関する調査等の実施（カタログ自体は国から公表）
 - ② 優れた利活用ケースの検証と公開、課題解決に資するデジタル投資に関する相談支援
 - ③ デジタル投資の活用により地域の課題を解決する人材の育成・採用支援 など

2023年12月21日：デジ田タイプ2/3説明会資料より

データ連携基盤の共同利用

調整中のイメージ
年明け以降に改めてご説明等実施



● データ連携基盤に関する今後の方針について

- (1) 分野別にデータ連携基盤は、原則、各都道府県で1つに限る(※1)
- (2) 分野間のデータ連携基盤は、各都道府県で1つに限る
- (3) これらは原則、カタログ(※2)が推奨するデータ連携基盤技術から採用する

(※1) 特定分野におけるデータの扱い等の特性上、別建てにすることが有益な場合に限り、特定分野に特化したデータ連携基盤は原則、各都道府県で1つに絞る(例：主に医療に分野に特化など)

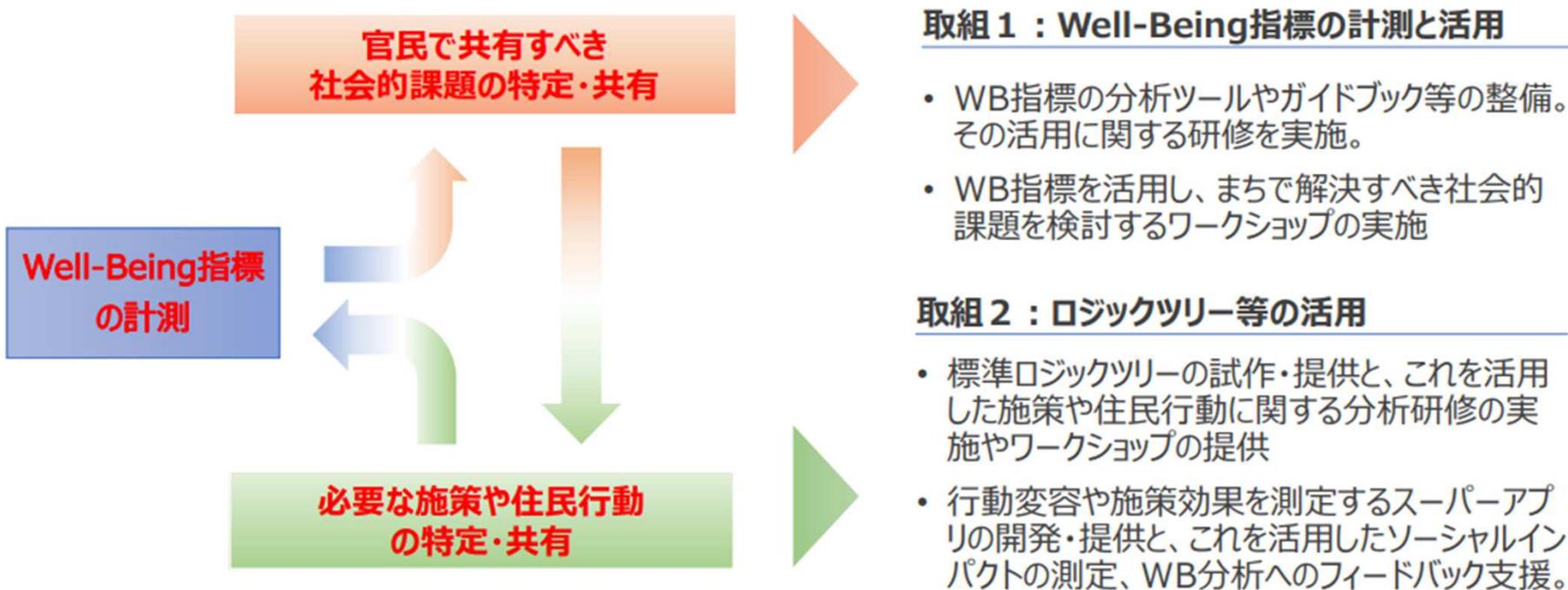
(※2) 「デジタル実装の優良事例を支えるサービス/システムのカタログ」について、令和6年1月目途にデータ連携基盤に関して更新予定

2023年12月21日：デジ田タイプ2 / 3説明会資料より

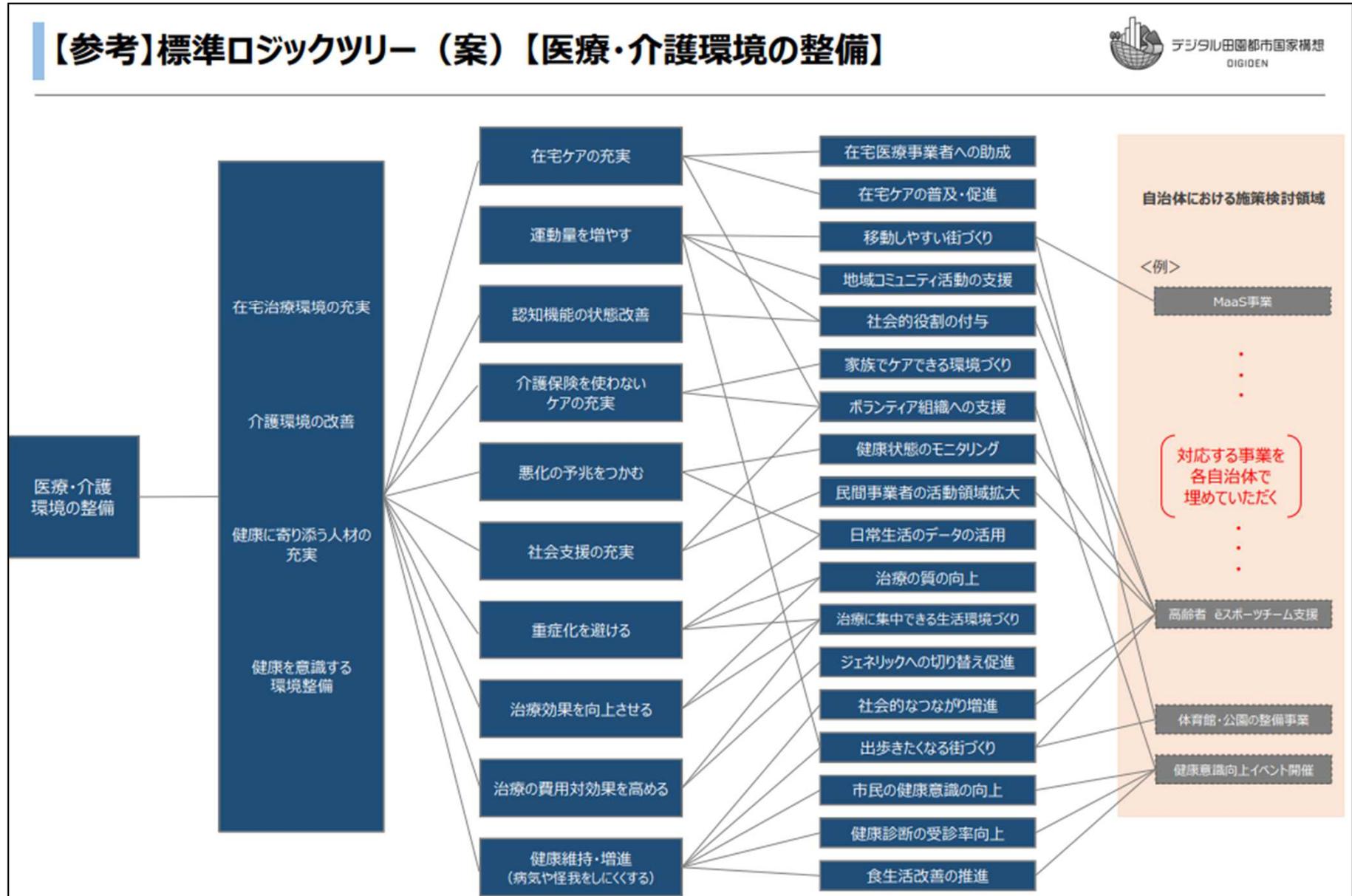
指標と標準ロジックツリーの2 StepでWell-Beingの向上を加速



- これまで地域幸福度（Well-Being）指標の分析やワークショップを進め、地域の社会的課題を特定しコンセンサスを作る取組を推進してきた。これにより本年度の本指標活用団体は約60団体と増加している。
- 他方、特定された社会的課題を解決に導くための住民等の行動や施策の特定に繋げるには、もう1段階踏み込んだ分析が必要。具体的には、当該課題の解決と、行動や施策をつなげることが必要であり、ロジックツリーの手法が適合しているのではないか。
- とはいえ、ゼロからロジックツリーを作成することは難しいため、デジタル庁で標準的なロジックツリーを示し、それをたたき台に、社会的課題と、それを解決するための行動や施策の特定を結びつける作業をしてもらうこととしてはどうか。
- 同時に、ロジックツリーの各項目を計測するために必要な手段（スーパーアプリなど）も用意し、取組のインパクトを明らかにできる基盤を整えることによって、社会的投資の加速などにもつなげていってはどうか。



2023年12月21日 : デジ田タイプ²/3説明会資料より



デジ田交付金活用と、スマートシティYAIZU推進方針の重点等を踏まえた検討状況

- ① **地図サービス（防災、都市分野）** <方針P23>
- ② **パーソナルサービス（健康、防災分野）** <方針P11>
- ③ **スマートシティ推進協議会の設立** <方針P28>